

検討の観点と内容の特色

検討の観点	内容の特色	具体例
観点1 教育基本法・学校教育法への対応		
① 教育基本法・学校教育法の理念をふまえた編集上の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 書写の学習を通して幅広い知識と教養を身につけるとともに、文字を正しく整えて書く力を、国語や他教科、日常生活・社会生活の中で役立てる態度を養えるよう配慮している。 ● 「書いて身につけよう」で日常的に使う言葉を練習したり、「身のまわりの文字」などで文字文化への認識を深めたりすることによって、社会生活で生きる力を育めるよう配慮している。 	全学年・全教材 「書いて身につけよう」 1年 p.28/2年 p.52 他 「身のまわりの文字」 3年 p.68 他
観点2 学習指導要領への対応		
① 基礎的・基本的な知識や技能の習得	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習指導要領の目標と内容がもれなく指導できる教科書になっている。 ● 学習過程の明確化や学習の系統性の重視、言語活動の充実などが図られている。 ● 教科書冒頭で姿勢や用具の扱い方などを丁寧に解説している。 ● 各教材冒頭に「書き方を学ぼう」を設け、学習のポイントを明確に提示している。 ● 毛筆が硬筆による書写の能力の基礎を養うことをふまえ、毛筆学習のあとには硬筆で確かめる「書いて身につけよう」を設けている。学習内容の定着や、他の文字にも応用できる力がつくよう工夫している。 	全学年・全教材 全学年・全教材 p.6-10 「書き方を学ぼう」 1年 p.12/2年 p.46 他 「書いて身につけよう」 1年 p.18/2年 p.50 他
② 「主体的・対話的で深い学び」の実現	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習の見通しをもちやすいよう、教科書冒頭で「学習の流れ」について解説している。 ● 各教材に「目標」「振り返り」を設け、生徒自身が主体的に学習に臨めるようにしている。 ● 各教材に示す課題や、学年末教材の「やってみよう」では、生徒どうしの対話を通して書写の学習を深められるよう工夫している。 	「学習の流れ」p.4 「目標」「振り返り」 1年 p.12/2年 p.48/ 3年 p.68 他 「やってみよう」 1年 p.44/2年 p.64/ 3年 p.74
③ 社会生活で生きてはたらく力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ● 「書いて身につけよう」では、日常生活・社会生活で使う言葉や書き方を硬筆で練習し、実践的な力の定着が図れるようにしている。 ● 資料編「日常の書式」では、宛名や伝票の書き方など、生活に必要な書式を提示している。 	「書いて身につけよう」 1年 p.28/2年 p.52 他 「日常の書式」 p.78-83
④ 文字文化への理解	<ul style="list-style-type: none"> ● 文字の役割や、手書きすることの意義を認識できるよう「活字と手書き文字・筆順」や「文字の変遷」「書の古典」などを取り上げている。 ● 3年の教材では、手書き文字の魅力を伝え広めながら社会で活躍する人物を取り上げることで、文字を手書きすることの意義を認識できるとともに、職業観を養えるよう工夫している。 	1年 p.22、p.30/p.86 他 「身のまわりの文字」 3年 p.68-71
観点3 内容・構成の工夫		
① 全体構成の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導事項・指導内容をバランスよく、適切に配分している。 ● 3学年分の教材を1冊にまとめてあり、3年間の学びを見通した学習ができるとともに、前学年までの学習も含めて随時振り返ることができる。 ● 「本編」・「資料編」の2部構成となっている。冒頭部では小学校までの既習事項を整理し、本編では必修の学習内容を扱っている。資料編「日常の書式」「書写の広場」では、日常生活・社会生活の中で必要となる書式を確認したり、伝統文化に親しむ資料にふれたりすることを通して、幅広い知識を得られるようにしている。 ● 主体的に学べるよう、「教材名」「目標」「振り返り」に学習のねらいを明示している。 	全学年・全教材 全学年・全教材 全学年・全教材 「日常の書式」 p.78-83 「書写の広場」 p.84-120 全学年・全教材
② 配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習指導要領の五つの指導事項に対してそれぞれ教材を設定し、発達段階に即して系統的に学習できるようにしている。また、毛筆教材のあとには「書いて身につけよう」、各学年末には「やってみよう」があり、学習した内容を他教材や他教科・社会生活で活用できるようにしている。 ● 学習指導要領に示された指導事項を過不足なく扱っており、また、生徒の発達段階に応じ、各学年の配当時数の中で無理なく学習計画が立てられる分量となっている。 ● 書風は、中学生の発達段階に配慮し、書写の学習のポイントをおさえやすいものとなっている。 ● コラムや補充教材が適宜配置されており、教室の実情に合わせて、再確認や更なる向上を目指した指導ができる。 ● 巻末に「資料編」があり、学習場面・社会生活での書字をサポートする例を豊富に示している(手紙・送り状・のし袋・願書・原稿用紙など)。 	「書いて身につけよう」 1年 p.28/2年 p.58/ 3年 p.72 他 「やってみよう」 1年 p.44/2年 p.64/ 3年 p.74 全学年・全教材 全学年・全教材 全学年・全教材 「資料編」p.78-120

検討の観点	内容の特色	具体例
③ 書写学習内容の設定	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書全体を通して、学習指導要領に示された教材選定の観点をふまえ、学習意欲を喚起するとともに、確かな書写の力の育成に資する教材を設定している。 ● 「書き方を学ぼう」では、正しく整った読みやすい文字を書くためのポイントを整理し、他の文字にも応用できる力がつくよう工夫している。 ● 毛筆で書いて確かめた内容を、「書いて身につけよう」などの豊富な書き込み欄を通して、ふだんの硬筆の文字に生かすことができるようにしている。 ● 毛筆学習では、朱墨を用いて、穂先の位置や筆脈などが理解できるよう工夫している。 ● 2年の教材の末尾には「学力テスト問題」を取り上げて、これまでに学んだ書写の学習内容を確認することができるようにしている。 	「書き方を学ぼう」 1年 p.12/2年 p.46 他 「書いて身につけよう」 1年 p.18/2年 p.50 他 「学力テスト問題」 2年 p.66
④ 生徒の発達段階・学年の特性	<ul style="list-style-type: none"> ● 系統的・段階的に教材を配列し、既習事項を活用しながら、学習を積み重ねられるようにしている。 ● 「書いて身につけよう」で取り上げている言葉は、生徒の学校生活や身のまわりの日常生活から、社会生活へと広がるように配慮して選定している。 	全学年・全教材 「書いて身につけよう」 1年 p.28/2年 p.52
⑤ 自学自習への対応	<ul style="list-style-type: none"> ● 「書き方を学ぼう」では、どこに気をつけて、どのように書けばよいか、という「学び方」をわかりやすく示すことで、学ぶ意義を自覚しつつ、自学で活用できるように工夫している。 	「書き方を学ぼう」 1年 p.12/2年 p.46 他
⑥ 国語・他教科や日常生活との関連	<ul style="list-style-type: none"> ● 各学年末の「やってみよう」や「書いて身につけよう」に国語との関連教材を配置することで、書写の学習内容を活用できるようにしている。 ● 他教科(数学・理科・社会・英語等)との関連教材を設け、教科横断的な学習ができるよう工夫している。 	「やってみよう」 1年 p.44/2年 p.64/ 3年 p.74 「書いて身につけよう」 1年 p.28/2年 p.58/ 3年 p.72
⑦ 小学校書写・高等学校芸術科書道との連携	<ul style="list-style-type: none"> ● 「学習のはじめに」や楷書の教材では、小学校書写での学習内容を確認できるようにしている。 ● 高等学校芸術科書道への興味・関心が広がるよう、3年の教材や「書写の広場」では発展的な内容を取り上げている。 	p.6-10 「やってみよう」 3年 p.74 「書写の広場」p.86
⑧ 教育のICT化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ● 各教材の二次元コードの参照先サイトにおいて、学習の役に立つ解説動画や書字動画、補充教材や参考資料など、豊富なデジタルコンテンツを提供している。 ● 巻末には、二次元コードの掲載ページとその参照先のコンテンツを一覧表で示している。 	「二次元コード一覧表」 p.104
観点4 使用上の配慮		
① 特別支援教育についての配慮・工夫	<ul style="list-style-type: none"> ● 特別支援教育の専門家による校閲を受け、全ての生徒にとって学びやすいよう、学習の要点がひとめでわかるレイアウト、読みやすい文体や改行などの工夫をしている。 ● 文字の解説図版は、朱墨を使った2色使いや、筆の移動を示すマークなどを用いることで、視覚的に理解できるよう工夫している。 	全学年・全教材
② カラーユニバーサルデザインについての配慮・工夫	<ul style="list-style-type: none"> ● カラーユニバーサルデザインの専門家による校閲を受け、全ての生徒にとって見やすく、学びやすい配色となっている。 ● 色による区別に加えて、形の違いや、記号・番号・説明文などの補助的な手がかりを設けている。 ● 色の濃淡や罫線の使い分けなどの工夫を凝らし、情報を整理しやすくしている。 	全学年・全教材
③ 文章表現・用語・記号・図解など	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒が意欲をもって学習を進められるよう、わかりやすい用語・表現を用いている。 	全学年・全教材
④ 書体・文字の大きさ・字間・行間など	<ul style="list-style-type: none"> ● 読みやすさ、学びやすさを追求して開発した、独自の明朝体・ゴシック体を使用している。 ● 文字の大きさや書体を適宜使い分け、情報が整理しやすく、学習しやすいよう工夫している。 ● 字間・行間は、生徒の発達段階や可読性に配慮し、読みやすく学びやすいレイアウトとなっている。 	全学年・全教材
⑤ 挿絵・図版・写真など	<ul style="list-style-type: none"> ● 挿絵・図版を適所に配置して、生徒の学習意欲を喚起し、内容の理解を支えている。 ● 表紙は、明るくさわやかな印象で、親しみやすいものとなっている。 ● 学習をサポートする役割をもったキャラクターを用い、知識・技能の理解や習得をスムーズに行えるよう工夫している。キャラクターの男女バランスにも配慮している。 	全学年・全教材
⑥ 印刷・装丁・造本など	<ul style="list-style-type: none"> ● 文字・図版・写真などの印刷が、鮮明でわかりやすくなっている。 ● 紙面は落ち着いた色合いを基調にしており、学びに集中しやすくなっている。 ● 学習の利便性に配慮し、書き込み欄を豊富に配置している。 ● 用紙は、硬筆で書く・消すといった使用に対応できる紙質のものを採用している。 ● 針金で3箇所を綴じる製本方式で、長期の使用に耐えられるよう配慮している。 ● 表紙はビニール加工を施し、墨を使っても汚れにくいよう配慮している。 ● 環境にやさしい用紙と植物油インキを用いている。 	全学年・全教材